

2018年4月7日
世田谷区軟式野球連盟
少年・学童部

『公認野球規則 2018』改正等について

2018年 公認野球規則は、21項目が改正されましたが、文言の追加、訂正、削除がほとんどで、大幅な改正、変更はありません。

本連盟の大会に関係がある点を抜粋し、説明します。

(1) 規則 9.14 (d) の改正

四球・故意四球 (d) を追加する。

(d) 守備側チームの監督が故意四球とする意思を球審に示して、打者が一塁を与えられたときには、故意四球が記録される。

この改正に関連して定義7も改正されました。

いわゆる『申告制の故意四球』について定めたものです。

公益財団法人 東京都軟式野球連盟では本規則を採用するとの事ですが、本連盟では当面の間は本規則の適用は見送ります。

(2) 定義38の改正

ILLEGAL PITCH (反則投球) の【注】を削除する。

【注】投手が5.07 (a) (1) および (2) に規定された投球動作に違反して投球した場合も、反則投球となる。

反則投球に関する日本独自の上記【注】を、国際基準に合わせて削除することとなりました。このことにより、いわゆる“二段モーション”と言われる投球動作に対しては、走者がいないときに限っては反則投球のペナルティーは宣告されませんが、塁に走者がいる場合は、反則投球 (6.02 (a) (5) としてではなく、6.02 (a) (1) および (3) に抵触するとして“ボーク”が宣告されます。

* 技術面においても、マナー面においても“二段モーション”は望ましい投球動作ではないという考えに変更はなく、我々はあくまでも正規の(ナチュラルな)投球動作の確立を目指すことに変わりはありません。

(日本野球規則委員会)

規則改正ではありませんが、日本の野球界全体で取り組むべき課題として、アマチュア野球規則委員会から以下の2点が提言され、実現に向けて進めていくことになりました。本連盟としてもこの実現を目指します。

1. ベンチ前のキャッチボールの禁止

公認野球規則5. 10 (k)において、

「試合中、両チームのプレーヤーは、実際に競技にたずさわっている者のほかには、ベースコーチ、次打者以外はベンチに入っていないなければならない。」と規定されています。

しかしながら我が国では以前から投手や野手が2アウトになるとベンチ前でキャッチボールを始めることが通例になっています。

アマチュア野球規則委員会では、東京オリンピックを2年後に控えたこの機会に規則の厳格適用を目指すことになりました。

今年度は、社会人野球と東京六大学野球において実施することが決まっていますが、2020年までには完全実施を目標としています。

本連盟では、従来から原則として実際に競技にたずさわっている者、ベースコーチ、次打者以外はベンチに入っていない旨を皆様をお願いしています。

今後ともご協力をお願いします。本連盟は規則に則り運用して参ります。

2. “ミットを動かすな”運動の展開

投球を受けた捕手が”ボール“をストライクに見せようとする意図でキャッチャーミットを動かしたり、球審のコールを待たずに、自分でストライクと判断して次の行動に移ろうとしたりすることについては、2009年のアマチュア野球規則委員会からの通達で、このような行為をやめさせる運動が展開されました。

本連盟でもこの運動を展開し、一定の成果が見られましたが、残念ながら現在でも一部のチーム、選手においてキャッチャーミットを動かす行為が散見されます。

これについては、指導者の皆さんがルールとマナーを正しく指導して頂き、マナーアップ、フェアプレイの両面からこのような行為をなくすようお願いいたします。

以上